

## 著者紹介

### オリバー・リッチモンド (Oliver P. Richmond)

マンチェスター大学教授。専門は、国際関係論、平和研究、紛争研究。2019年、世界国際関係学会 (ISA) から「Eminent Scholar Award」を受賞。パルグレイブ・ブック・シリーズ「平和紛争研究の再考 (Rethinking Peace and Conflict Studie)」や、『パルグレイブ平和紛争研究事典 (The Palgrave Encyclopedia of Peace and Conflict Studies)』、雑誌『平和構築 (Peacebuilding)』などの共同編集者。英国王立芸術協会フェロー。近著として、*Failed Peacemaking: Counter-Peace and International Order*, (Co-Author MacMillan, 2023), *Peace in Digital International Relations: Prospects and Limitations* (Co-Author Cambridge University Press, 2022), *The Grand Design: Peace in the 21st Century* (Oxford University Press, 2022) など。

### 佐々木 寛 (ささき ひろし)

新潟国際情報大学教授。専門は、平和研究、現代政治理論。立教大学法学部助手、日本学術振興会特別研究員 (PD) を経て、現職。2008-09年カリフォルニア大学バークレー校客員研究員、2014-16年日本平和学会会長。近著として、「平和研究の再定位——『文明』転換の学へ」(日本平和学会編『平和学事典』丸善出版 2023年)、「『文明』転換への挑戦——エネルギー・デモクラシーの論理と実践」(『世界』岩波書店 2020年)、訳書として、ポール・ハースト『戦争と権力——国家、軍事紛争と国際システム』(岩波書店 2009年)、デヴィッド・ヘルド『デモクラシーと世界秩序——地球市民の政治学』(共訳 NTT出版 2002年) など。